



東上総教育事務所
シンボルマーク

指導室より

教室から社会へ広がる学び ～「生涯学習」でつなぐ教育の未来～

「学校教育」や「家庭教育」という言葉はイメージしやすいかと思いますが、「生涯学習」や「社会教育」については、あまり意識したことがないという方も多いかもしれません。でも、実はこの「生涯学習」には、私たちの人生を、より充実させるヒントがたくさん詰まっています。
今回は「生涯学習」や「社会教育」について紹介していきます。



注目!

「生涯学習」のイメージ図

生涯学習

教育による学習

「教える者」と「学ぶ者」による行為



学校教育 による学習

「先生」と「児童生徒」

家庭教育 による学習

「保護者」と「子供」

社会教育による学習

学校・家庭以外の広く社会における教育

多様な立場・年齢の人々が「教える者」または「学ぶ者」となる。
(例) 公民館講座、地域行事、スポーツ少年団など。



自己学習

「学ぶ者」のみによる行為

- ・読書等の自主学習
- ・スポーツ活動
- ・文化活動
- ・ボランティア活動
- ・体験活動 など



生涯学習は、学校や家庭での教育だけでなく、社会教育や自己学習を通じて個人が成長し、社会に貢献するための重要な考え方です。特に、子供たちの学びを支えるためには、学校教育や家庭教育に加え、地域の力である社会教育を活用することが有効です。

学校と社会をつなぐ取組事例

【地域連携プロジェクト】

・学校と地域の企業や大学、団体が協力し、地域課題を解決するための活動です。

【地元の文化・歴史の学び】

・地元の歴史的場所を訪れたり住民にインタビューしたりして、地域の文化や歴史への理解を深める活動です。

【地域ボランティア活動】

・児童生徒が地域の高齢者施設や福祉施設、環境保護活動に参加し、実際の社会問題に対して貢献する活動です。





東上総管内の取組事例



「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）」と「地域学校協働本部」が、両輪となって学校と地域を支える活動が展開されている長南町の取組



【「郷育」古代米づくり】



【手作りの森の図書館】



【ボランティア交流会】

長南町地域学校協働本部は、「人とつながり、地域とつながり、次代へつなげる長南の教育」という町教育基本理念のもと、見守り活動や放課後子供教室等はもちろん、町の伝統文化や産業について学ぶ「郷育」のサポート等をとおして、学校と地域が連携・協働しています。また、「できる人が、できる時に、できることをやる」を合言葉に緩やかな組織として継続的な取組を行っています。

コーディネーターが、実際に学校の要望等を把握した上で内容の企画・立案、地域人材とのマッチング、次の活動に向けての振り返り等を行うなど、PDCAサイクル（Plan〈計画〉→Do〈実行〉→Check〈評価〉→Action〈改善〉）で活動を行うことにより、継続的かつ質の高い取組となっています。

千葉県内や全国でも、学校と地域が連携・協働した活動が数多く行われています。

ぜひ、右の二次元コードから、取組事例をご覧ください。



[広報誌「地域連携のススメ」
\(千葉県教育委員会\)](#)

[学校と地域でつくる
学びの未来
\(文部科学省\)](#)



いじめ重大事態の調査に関するガイドラインの改訂について

平成29年3月に制定された「いじめ防止対策推進法」に基づき作成されたガイドラインが、令和6年8月30日に改訂されました。近年、いじめ問題が深刻化する中、重大事態調査における学校や関係者の役割を明確化し、より円滑かつ適切な調査の実施を促すことを目的としています。

今回の改訂では、平時からの学校と設置者との連携強化、調査開始前の丁寧な説明、調査報告書の充実などが明記されました。全ての教職員は本ガイドラインに基づき、いじめ問題に積極的に取り組むとともに、いじめ被害児童生徒やその保護者に寄り添い、安心して学校生活を送れるよう最大限の努力をお願いします。今回のガイドライン改訂は、いじめ問題の根絶に向け、大きな一歩となるものです。教職員が一丸となって、安全安心な学校環境を構築することで、子供たちの健やかな成長が期待されます。



Check!



[いじめの重大事態の調査に関するガイドライン改訂の概要](#)



Click!



[いじめの重大事態の調査に関するガイドライン](#)

(文部科学省)